

アンケートの回答全部見せます！

事前に **blog** にてアンケートを取って、クラブごとに纏めようとおもったのですが…正直反応がありませんでした。ので、アンケートいただいた回答を全部見せます！

アンケートの内容

【推しクラブについて】

- ・あなたの推しクラブ名
- ・あなたの推しクラブの今シーズンの評価(5段階で)
- ・あなたの推しクラブの MVP は誰ですか
- ・あなたの推しクラブに欲しい選手は(実現可否は問いません、妄想

OK。)

- ・あなたの推しクラブを宣伝してください
- ・あなたの推しクラブに一言

【Bリーグについて】

- ・Bリーグの今シーズンの評価(5段階で)
- ・Bリーグの MVP は誰ですか
- ・Bリーグに一言
- ・昇格クラブ、降格クラブへエールを
- ・2017-18 シーズンの注目クラブを教えてください

回答者：青砥千樹

【推しクラブについて】

・あなたの推しクラブ名
千葉ジェッツ

・あなたの推しクラブの今シーズンの評価(5段階で)
今期は文句なく5

・あなたの推しクラブの MVP は誰ですか
悩ましいけど、やっぱり#2 富樫ですね。

・あなたの推しクラブに欲しい選手は(実現可否は問いません、妄想OK。)
ギブス来ないかなーギブス。

・あなたの推しクラブを宣伝してください
千葉と言いながら船橋にあります。船橋と言いながら、北習志野にあります。
若手からベテランまで、幅広くいいメンツ揃ってます。ぜひ船橋アリーナで身近な非日常をお楽しみください。

・あなたの推しクラブに一言
2連戦終了後に相手チームとエールの交換をする間を設けてほしいです。(相手チームとブ
ースターの皆様に盛大な拍手を！の後、選手退場までの間に30秒ほどあれば・・・)

【Bリーグについて】

・Bリーグの今シーズンの評価(5段階で)
どこが満点かっつのは難しいけど、予想以上だったので4。

・Bリーグの MVP は誰ですか
ニック・ファジーカス(川崎)

・Bリーグに一言
クレジットカードの対応は明確をお願いします。
地区分けするなどは言いませんが、地区内の対戦カード数は均一にしてください。(自地区5クラブ×6試合+交流戦24クラブ×2試合=54試合でよいかと)

・昇格クラブ、降格クラブへエールを
昇格クラブへ：上がってきたこと以上にレギュラーシーズンの壁は厚いかも知れませんが、死ぬ気で上位陣から挨拶代わりの一勝をもぎ取ってください。

降格クラブへ：勝負のイヤヤ、ライセンスのイヤ色々あるかとは思いますが、まずはバンシッと勝って先手を取りましょう。

・2017-18シーズンの注目クラブを教えてください
割とレギュラー陣が残りそうな、茨城ロボッツを。
これを書いているタイミングではビックマン不在になっていますが、17-18シーズンはもっと上位陣に迫れるのではと期待しています。

回答者：しゅうじ様

【推しクラブについて】

- あなたの推しクラブ名
秋田ノーザンハピネッツ！
- あなたの推しクラブの今シーズンの評価(5段階で)
2. 若手の成長のみ成果
- あなたの推しクラブの MVP は誰ですか
プレイタイム最長の安藤誓哉。スコアもがんばった
- あなたの推しクラブに欲しい選手は(実現可否は問いません、妄想 OK。)
張本テンケツ！ネタキャラもいけるし実力もある 3 番は是非！
- あなたの推しクラブを宣伝してください
軽く宗教です
- あなたの推しクラブに一言
HC はポイヤーで頼み申す

【B リーグについて】

- B リーグの今シーズンの評価(5段階で)
4. 暫定的で歪なレギュレーションに不満はあるがよくぞ成立させた！
- B リーグの MVP は誰ですか
ファジーカス。
- B リーグに一言
階層制はいずれ無くして最大でも同一カードは 4 くらいにして欲しい。18 チームに縛る必要もなし。地区もなしか 2 つで。
- 昇格クラブ、降格クラブへエールを
昇格クラブは地獄を見るだろうがそれを楽しんで欲しい。降格クラブは 1 年で戻る熱を見せてほしい。
- 2017-18 シーズンの注目クラブを教えてください
島根スサノオマジック。心情的に功労者を切りにくく補強しにくいと思うが、しないと確実に 10 勝もできないだろう。開幕の前に編成が大注目！

回答者：Mai.N様(1/3)

【推しクラブについて】

・あなたの推しクラブ名

地元のアリーナが B リーグチームのホームになったという事で興味を持ち観に行ってから引き込まれた新潟アルビレックス BB と、バスケット好きのフォロワーさんから話を聞いて気になり、そこから見に行く機会が何度かあり気にしているうちに好きになった千葉ジェッツの 2 チームです。

故に、少々長くなってしまおうのですが私のアンケートは両方のチームについて語らせていただきます。

また、バスケットを本格的に見始めたのは今年からなので、素人目線で詳しい人が見れば、こいつは何を言っているんだと言いたくなる部分もあるかもしれませんがご容赦ください。

・あなたの推しクラブの今シーズンの評価(5段階で)

【新潟編】

5段階評価で3。

成績面については、bj リーグ時代の順位を踏まえると残留争いも覚悟していましたが途中は残留争いどころか CS 争いに加わるくらいの勢いを見せて、CS 進出への期待を持たせてくれる戦いぶりでした。ただ、負傷者が続出してしまふと層の薄さが露呈してしまい勝てなくなる、という所と特定チームとの相性の悪さが足を引っ張りました。財政面を考えますと層の薄さはやむなしとも取れるのですが……。アリーナ周りでは頑張っていたのが伝わってくるだけに、もっとお客さんが増えてほしいなと思いました。

【千葉編】

5段階評価で5。CS はチームの若さが悪い形で出てしまいましたが、後半から調子を上げてきてアウェイでアルバルクや栃木といった強豪に勝てたのはとても大きかったです。そして、強豪 4 チーム中 3 チームを下しての天皇杯優勝は本当に素晴らしかったです。B リーグ開幕後初めての天皇杯を制したのは今後のチームにとって大きな財産になるでしょう。このミッションを成し遂げた選手やチームスタッフの方々に拍手を送りたいですね。

そして、平均入場者数、1 試合の最高入場者数、リーグを通じての総入場者数が全てトップである点も評価に入れていきます。なかなか成し遂げられる事ではありません。チーム関係者の努力に敬意を表します。

・あなたの推しクラブの MVP は誰ですか

【新潟編】ダバンテ・ガードナー選手。この選手なくしてはこの成績はありませんでした。京都戦からの負傷離脱がとても痛かったです。日本人選手なら五十嵐選手。プレーの面での貢献度も勿論ですが、様々な話題を提供してくれたという意味でも。

【千葉編】タイラー・ストーン選手。ベストシックスマンは初めて聞いた時は驚きもありましたが、それまでのシーズンを思い返せば納得でした。日本人ならば石井選手。一時は金丸と同じくらいの 3P シュート成功率で、かつここという時に決めてくれたので。

・あなたの推しクラブに欲しい選手は(実現可否は問いません、妄想 OK。)

【新潟編】そんなのどこも欲しい、と突っ込まれるのを覚悟で、日本人の若いビッグマンの選手。具体的に言えば川崎の野本選手や栃木の熊谷選手のような。あとは公威選手の穴を埋めるくらいの SG をですね……。

【千葉編】小野選手のバックアップも出来そうな若手の SF がいれば嬉しいです。あとはヒルトン選手の再契約が理想と書いた上で、純粋なセンタータイプの外国人選手が欲しいです。

回答者：Mai.N様(2/3)

・あなたの推しクラブを宣伝してください

【新潟編】ホームアリーナのアオーレ長岡はアクセスも良く綺麗で見やすいアリーナです。試合日にはイベントも多くやっています、そして超ロングシュートが話題になった五十嵐圭選手のプレーも見られます！ぜひアオーレ長岡へ来てください！（たまに上越とか新潟開催もありますが）

【千葉編】まるで飛行機のクルーのようにチーム全体で一生懸命に戦う姿、ホームの船橋アリーナ（たまに千葉ポートアリーナもありますが）の満員のお客さんが作り出す独特の雰囲気、一度行ったらはまります。今ならあの富樫も見られます！

・あなたの推しクラブに一言

【新潟編】ガードナー選手残留安心しました！これで五十嵐選手も残れば戦えます！それはともかくとして財政面を安定させていきなり優勝とは言いませんが、少しずつ上を目指せるチームを作ってください。

【千葉編】天皇杯も制覇しCSにも進出、最高観客動員数も達成と充実したシーズンでしたが、これからもっと大変な事も出てくるでしょう。ですが、乗り越えて高みを目指していきましょう！

【Bリーグについて】

・Bリーグの今シーズンの評価(5段階で)

5段階評価で4です。紆余曲折はあった物のリーグ統合にこぎつけて開幕した点、観客動員数を大きく上げたチームが沢山あり、プロバスケットという新しい物を多くの人に広げて行った点を評価しました。

1下げたのは、3点ありひとつは審判関係の問題が度々見られた点。判定がSNSで炎上したり、外国人選手が批判の発言を残したり。ゆっくりでも良いので改善及びレベルの向上を望みます。

もうひとつはチケットの転売対策をしっかりと取って欲しい点です。ファンが観に行けない一方で高額転売がいくつも出ているのが度々見られたのを歯痒く感じていたので。

最後に、地区制やリーグの方式に関して改善の余地があると考えている点です。プレーオフである程度バランスは取れるとは言え東地区はきつすぎで逆に西は人気カードが少なく観客動員に影響が出てしまうのではないかと。

・Bリーグの MVP は誰ですか

ジェフ・ギブス選手(栃木)。栃木が優勝できたのはこの選手の力が大きいと考えている為です。怪我は残念ですが焦らずじっくり直してまたコートに戻ってきてください。

・Bリーグに一言

まずは1年目のシーズンお疲れ様でした。改善するべきところも数多くありますが、日本中でバスケットを見始める人が増えるきっかけをこうして作れたというのは良いことです。

五輪が終わるまででそれが終わってしまえばもうどうでもよい、という声もあるかもしれませんが、この折角の盛り上がりが無駄にしてほしくはありませんし、応援する側としても少しでも長く続けるためにももっともっと盛り上げて行きます。

回答者：Mai.N様(3/3)

・昇格クラブ、降格クラブへエールを

西宮：畠山選手とダバンテ選手は元気にやっています。後半から上げてきた戦いぶりは見事でしたね。お手柔らかにお願いします。またコウノトリと飛行機との開幕戦、楽しみです。

島根：佐藤公威選手を本当によろしくお願いいたします！！開幕戦沢山アオーレに来てください。また日本海側のチーム同士共にBリーグを盛り上げて行きましょう！

秋田：本気の補強と熱い応援があれば1年でのB1復帰も夢ではないでしょう。戻ってきた時に対戦するのが楽しみです。

仙台：昨シーズンカメイアリーナへ行きとても良くしてもらったので降格は残念です。またB1に戻りB1で熱い戦いをしましょう。

・2017-18シーズンの注目クラブを教えてください

アルバルク東京と琉球ゴールデンキングスです。

東京は京都から小嶋選手を獲得し、日本代表でHCを勤めていたルカ氏を呼び、タイトル無しに終わった16-17シーズンのリベンジを計ろうとしています。良くも悪くも話題のアルバルク東京が激戦の東地区でどう戦うのかは注目です。

琉球はやはり、本気度の高さを感じるチームの刷新ぶりが目立ちました。新加入選手として石崎選手、アイブラウン選手、須田選手に率いるのは佐々さんと手強いですが面白そうなチームです。今年こそは悲願の地区優勝、となるのでしょうか。

個人的には佐藤公威選手が行ったのと大幅入れ替えがどう転ぶのかという点で島根、上江田選手が行ったのと新潟と同地区ライバルの富山にも注目しています。秋田：本気の補強と熱い応援があれば1年でのB1復帰も夢ではないでしょう。戻ってきた時に対戦するのが楽しみです。

回答者：Taka様

今季のライジングについて。

B3リーグ46勝6敗。成績面でいえば満点だと思います。しかしそれ以外の面、例えば観客動員。あれだけ勝ち続けたのに然程増えませんでした。何故なのか？ズバリ、クラブの努力不足でしょう。思い出してください。bjで準優勝の経験もあるクラブが何故3部からのスタートとなったのかを。リーグ振り分けの際、川淵さんに言われた事。「福岡は2部と考えたいたがクラブが努力してないので3部にした」あれから2年近く経ちますが何か変革はあったのでしょうか？否、クラブは相変わらず迷走を続けています。ブースターを無視した一方的なチーム名変更、結果を出しているHCを突然解雇、しかもブースターには何の説明も無し等々。このままではいずれ福岡のバスケットは衰退します。もう少しブースターの目線で考えてください、意見を聞いてください。

MVP：山下 泰弘。1部からの誘いがあったにもかかわらず「地元福岡の為に」と福岡でのプレーを選択。今やライジングに欠かせない選手です。

来季に期待する事。

クラブは「1部昇格」を目標に掲げていますがそれよりも地域に根付いた、愛されるクラブを目指してください。

回答者：わたらせ様

【推しクラブについて】

・あなたの推しクラブ名
リンク栃木ブレックス

・あなたの推しクラブの今シーズンの評価(5段階で)
5です

・あなたの推しクラブの MVP は誰ですか
ジェフ・ギブス。ファイナルのあの怪我しながらのプレーは忘れられないです。

・あなたの推しクラブに欲しい選手は(実現可否は問いません、妄想 OK。)
2016-2017 シーズンのメンバーが最高すぎて浮かびません(笑)
あえて言うならもう少し安定して3Pが入る選手が欲しいです

・あなたの推しクラブを宣伝してください
ブレックスはアリーナの雰囲気最高です！アリーナは決して大きくはないのですが、熱気がすごくあります！あとかの有名な田臥勇太もいます← とりあえずどっかバスケ見てみたいなって方は一度ブレックスの試合を見てみてください！

・あなたの推しクラブに一言
Bリーグ初代チャンピオン、おめでとうございます！毎試合ワクワクする試合を見せてくれるブレックス。最高です！！あとはフリースローだけ何とかしてください(笑)

【Bリーグについて】

・Bリーグの今シーズンの評価(5段階で)
4です。1シーズン目にしては満足させてもらえたかなと思います。

・Bリーグの MVP は誰ですか
金丸選手(三河)で！憎たらしいほどいいところで決めるシュート。何度泣かされたことか(笑)

・Bリーグに一言
1シーズン終えて、よかったところ悪かったところ、様々出てきたと思います。これから更にいいところを伸ばして、悪いところを直して、より良いリーグにしていって欲しいです。あと B1 東地区なんかかなりませんか？ならないですか…。

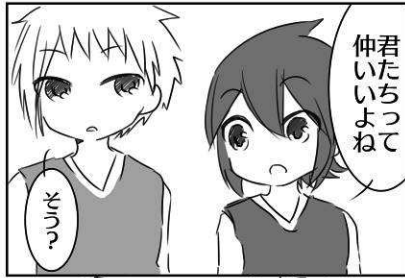
・昇格クラブ、降格クラブへエールを
戦うフィールドが変わって、いろいろ苦戦したり、思うように行かないこともあるかと思えます。頑張ってください！そしていつか試合が出来る日を楽しみにしております！！

・2017-18 シーズンの注目クラブを教えてください
島根スサノオマジック。新たな陣営で B1 に乗り込んでくる彼らがどれくらい戦えるのか。楽しみにしています。

(わたらせ漫画6)



琉球



秋田

名古屋D



大阪



三遠



滋賀

京都



B リーグ 1st シーズン総括

執筆者：しゅうじ

【はじめに】

【第1章】 Bリーグ誕生～NBL, bj リーグの統合～

【第2章】 リーグの構成～3階層3地区制～

【第3章】 選手紹介

【3-1】 こんなにすごい日本人選手

【3-2】 やっぱりすごい外国籍選手

【3-3】 プレイタイムをしてみる

【第4章】 2つのプレーオフ～CS と P0～

【おわりに】 Bリーグ初年度は楽しかった！

【はじめに】

このページをめくっている方の多くは金丸晃輔のフリースロー成功率(90.8%)くらいの割合で既にBリーグに関心を持っている人だろう。そのためある程度の知識や情報を読み手が持っているものとし乱筆を振るいたい。一応予備知識のない人にも読めるように努力したつもりだが、わからない単語などがあればバスナビ.comなどで調べよう。数年後読み返して楽しめたらと願いを込めて。

【第1章】 Bリーグ誕生～NBL, bj リーグの統合～

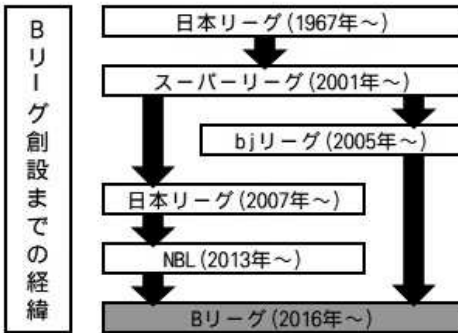
JBLを前身とするプロアマ混合のNBLと、プロチームのみで構成されるbjリーグが国際試合に出たかったら統合してね(怒)とFIBAに言われ川渕三郎氏の剛腕で合体しBリーグになった。(*1)

NBLはアルバルクやブレックス、bjはキングスやハピネッツが代表的クラブで、比較的資金力があり有力選手を多く保有するNBLクラブの優位を予想する声が大多数だった。果たして結果は…

【第2章】 リーグの構成～3階層3地区制～

レギュレーションの発表にあたりバスケットボールファンはそわそわしていた。果たして46ものクラブをどう1つのリーグに収めるのか、と。やれDivision1と2だの、やれ東地区と西地区だの、その両方だの…。結論はサブタイトルの通りとなり有識者ぶった自称バスケ通は数日間ティロン・ルーのように息を潜めた。

経営力ありと判断された上位18クラブがB1(*2)というカテゴリで東中西の3地区に分けられ、それに準ずる18クラブがB2という形で同じように3地区に分けられた。その他はB3という地域リーグになりJFLのようなプロアマリーグとされた。



*1
 シーホース三河の高橋マイケルは、日本でのキャリアでもう4回くらいリーグが変わったよ、とインタビューに苦笑いで答えた



*2 B1リーグは、左列：東地区、中列：中地区、右列：中地区で始まった。(Bリーグバスタオルより撮影：青砥千樹)

【第3章】選手紹介

なんといってもBリーグの主演は、ファンの目前で実際に長方形のウッドコートを駆ける筋骨隆々の選手たちだ。メジャースポーツでは比較的狭い28×15m範囲を平均およそ190cmの10人の男達が走って跳んでたまにケンカするのだ、見応え十分である。
(ちなみに最大身長はバチンスキー218cm、最小は志村雄彦160cm)
ページの都合でほんの数名だ给大家介绍したい。

【3-1】こんなにすごい日本人選手

① 富樫勇樹 167/65PG 千葉ジェッツ

中学で日本一になりアメリカへ渡り高校卒業後bjリーグでプロデビューしたスピードスター。一瞬でマークを抜きレイアップまで行ってしまいが、スリーも高確率のため完全な対策は難しい、個の能力で展開できる数少ないタレントである。NBAダラスマーベリックスと契約し下部リーグに所属したが、田臥勇太に続くNBAデビューには届かなかった。

② 田中大貴 192/93SG アルバルク東京

開幕戦の公式ブースターを務めた縁でモデル/女優の広瀬アリスと付き合い始めた~~平届き者~~Bリーグを夢ある舞台にした男だ。ガードとしてサイズ、敏捷性、パワー、バスケIQといった選手としての総合力がとて高い。特にディフェンスは評価が高く、同じ日本代表で学生時代からライバルの比江島慎(三河)は「1on1では攻め手がないのでピックがないと無理」とアワードで語った。スリーの確率が40.9%と高いがドライブからのイージーレイアップも多い。1on1の仕掛けが多かったギャレットの退団でよりボールに触れる時間が増えるだろう。

③ 田口成浩 184/84SG 秋田ノーザンハピネッツ

スリーポイントコンテストをbj時代から連続で3連覇したお祭り男(勝利の掛け声おいさーは地元角館の祭り由来)。コンテストファイナルはNBLで連覇中だったシーホース三河の金丸との一騎打ちだったため、どちらが勝っても3連覇という組み合わせだった(シーズンでは金丸42.6%、田口39.1%だった)。

苦しいチーム事情の中で 11.5 得点を上げるもチームは降格、いち早く残留を表明し B1 復帰を目指す。

【3-2】 やっぱりすごい外国籍選手

① ニック・ファジーカス 210/110C 川崎ブレイブサンダース

B リーグ初代 MVP で得点王でリバウンド 2 位で 3P42.8%で 2P56.6%でフリースロー81.5%だったとまああえずボール渡してなんとかしてもらおうマン。NBA ダラスマーベリックス他にいたが膝の故障で主にトランジションに弱点が生まれアジアへ。学生時代からシュート技術は群を抜いて上手く様々な学生記録を持つ。日本の審判の笛にも完璧に対応しリーグ環境の頂点に立っていて川崎は絶対に手放したくないだろう。

② ディアンテ・ギャレット 196/85SG アルバルク東京

数少ない外国籍ガードプレイヤー。日本人ビッグマンの竹内譲二(207cm)の存在がバックコートでの外国籍選手の採用を可能にした。NBA のジャズなどでプレイし、2017 年現在 NBA の頂点にいるステフィン・カリーともマッチアップしている(ドライブで華麗に抜きレイアップを決めた)。ボールハンドリングの名手で華のあるプレイは他クラブのファンからも好かれオールスターに出場した。ダンスのようなドリブルやステップ素敵。2017.7.6 にアルバルク東京(トヨタ)からイタリアトリノ(フィアット)へ移籍が発表された。大車輪の活躍ただだけに惜しい。

③ ジェフ・ギブス 188/110PF 栃木ブレックス

アルバルク東京の前身トヨタで6年プレイし栃木に移り初代王者の称号の立役者となった小柄だが大柄な男。アメリカではシューズ込みの身長表記のため、実際の彼の身長はおよそ 185cm ほど。しかし長大なウイングスパンとアメフトで培った無敵の肉体でインサイドを制圧しトランジションにも弱点がない。ギブスより上の重量級にはバツ(三河)133kg、ガードナー(新潟)132kg がいるが、ギブスは両者より 15~20cm 以上低身長のため低い重心から突き上げるようにコンタクトでき、むしろ小回りの優位で役割遂行できた。強すぎるからかスクリーンをかけるだけでファウル

を取られるなど日本の審判には大きな不満を持っている。
地味にフリースロー確率 82.0%なのも信頼性が高い。

④ ファイ・パプ・月瑠 200/100C 横浜ビー・コルセアーズ(帰化)

プレイスタイルはシンプルにポストアップしてフックシュート、ほぼこれのみ。男のバスケットには小技もスクリーンもスリーポイントもいらん、なんならフリースローもいらんという気風の良さで FT 確率驚異の 37.0%を樹立。相手としてはフリースロー打たせれば期待値 0.7 点くらいなので楽だが、横浜のコーチ陣は頭を痛めただろう。2 本とも決まるとチームやホーム会場が異常に勢いづくためギャンブル性のある謎の魅力選手だ。ちなみに NBA でフリースローを苦手とする代表的な選手にハワードやディアンダレ・ジョーダンがいるが、彼らも大体 40%前後くらいの確率。

◎豆知識 : チームの得点に占める外国籍選手の得点割合は、最高が川崎の 60.8%で、最低が北海道の 32.2%だった(12 月末時点)

【3-3】プレイタイムを見てみる

選手を評価する上で様々な指標があるが、何と云ってもまずはどれだけコーチの信頼を得て試合に出られているかだ。

選手の価値はプレイタイムである。このオフに長くベンチを温めてまで名門に在籍し続けた二ノ宮(A 東京)もついに、プレイタイムを求め琉球に渡った。張本(A 東京→名古屋 D)や宇都(A 東京→富山)の活躍に心は揺れただろう。コートに出て評価を上げれば年俸も上がるのだからプレイタイムこそ第一に求めるもので、よくあるのは栃木か A 東京で出番がなく移籍してエース格になるというパターン。

以下ランキング(単位分)

- | | | |
|--------------------|------------------|----------------|
| 1. 安藤 (秋田) 33.8 | 2. 佐藤 (新潟) 32.8 | 3. 田口(秋田) 32.4 |
| 4. マブンガ(滋賀) 31.9 | 5. 五十嵐(新潟) 31.8 | 6. 小野(千葉) 31.2 |
| 7. ロシター(栃木) 30.7 | 8. パーマー(横浜) 30.4 | |
| 9. ファジーカス(川崎) 30.3 | | |

このように 30 分超えは 9 人で、なんとなくチーム事情が透けて見える。ちなみに安藤は栃木を、小野は A 東京をプレイタイムを求めクラブを去った過去がある。今では両者共に日本代表だ。このオフに日本代表の永吉(川崎)も京都への移籍が報じられている。ファジーカーが 30.3 分も出ていてその分当然に出番は少ないからだ。

秋田と新潟はガードの 2 人がランクインしている。
(秋田は安藤田口で 66.2 分、新潟は佐藤五十嵐で 64.6 分)

これはガードの層の薄さが顕著に現れている。秋田の 2 人は若い
が、新潟の 2 人は 32 才と 36 才、かなり大変なシーズンだったろう。
外国籍選手は他のスタッツでもランクインするリーグ屈指のエース
のためタイムは長くなった。東京や三河といった名門に該当選手が
いないことからタイムシェアを徹底して総合力で勝ち上がっていた
のがわかる。大体はチームの層の厚さで説明できそうだ。

日本人フォワードで唯一小野がランクインしているが、これは on1
の際にほぼ彼のところでミスマッチが生まれるからだろう。相手の
日本人ビッグマンが帰化のパーカーにつくため 198cm の小野には大
体の場合 190cm 前後の選手がマッチアップする。東地区で言うと田
中(A 東京)白濱(秋田)栃木(古川)がついていた。全員ポストプレーに
対応し切れず on1 時の千葉の強さを印象付けるものだった。

【第 4 章】2 つのプレーオフ～CS と PO～

CS には川崎, 栃木, 三河, A 東京, 三遠, 琉球, 千葉, 渋谷
PO には富山, 秋田, 横浜, 仙台(共に RS 勝率順)が進出した。
(下線は元 NBL、囲いは元 bj)

CS は川崎と栃木のファイナルとなり、戦前の予想では川崎の優位
を挙げる声が多かった中で田臥勇太率いる栃木が初代王者の称号を
得た。川崎は前半ファジーカーのシュートタッチが悪く、逆に栃木
は古川やギブスを中心に堅実に得点を重ね続けた。ファジーカーは
後に「たった 1 戦だけで強弱は測れない」と語り、大河チェアマン
も将来的には 7 戦か 5 戦方式でやりたいと発言している。

PO は仙台が富山にアウェーで RS と同じく惨敗し、秋田は横浜のエ

ース川村に劇的ブザービーターを決められホームで降格が決まった。
B2 からの入れ替わりは B2 優勝の西宮と島根だった。

【おわりに】 B リーグ初年度は楽しかった！

開幕のカードは地上波放送で A 東京対琉球をやると大河チェアマンが発表した時、1 人ですごく盛り上がった。SNS 上も視聴率など不安視する声もあったが、概ねポジティブな高揚感が漂っていた。LED コートにもみんな興味津々だったように思う。

あの開幕戦で琉球ブスターの発した熱は新しいバスケットファンの増加に一役買ったに違いない。スラムダンクの作者井上雄彦氏も彼らを MVP に挙げた。

少しずつ企業系のクラブもプロクラブの様相を醸しはじめ、ホーム会場で様々な試みを行いスポーツエンターテイメントを提供した。個人的に大阪のオープニングと東京のハーフタイムショーは毎度楽しみで、会場毎に違う演出や出店、応援スタイルの異質さに胸を躍らせたものだった。

みなさんには是非アウェー観戦もオススメしたい。

良い面もあれば課題となる面もあった。それは日本バスケット界の永遠のテーマでもあるかもしれない。

インサイドは外国籍、ガードは日本人という構図が未だに変わらないからだ。近隣のリーグでは 4Q は on1 固定、契約外国籍は 2 人で内 1 人は 6.5F(193cm)以下、などの策をとっている。

日本代表の永吉(川崎)198/115PF/C はプレイタイム 15.1 分。代表クラスでもインサイドではこんなに出番が少ないのだ。

ギャレット(A 東京)とマッチアップした日本人はかなり自信を高めたようにも思えるが、今後のレギュレーションは果たして…。

北海道は財務整理できるのか、琉球の鬼補強は果たして、秋田広島熊本他は昇格できるのか、西宮島根は B1 で生き抜くことができるのか。B リーグ 2nd シーズンはもうすぐ——

終

新潟アルビレックス BB 総括

執筆者：Mai.N

2017年4月29日、アオーレ長岡でのホーム三遠戦。新潟アルビレックス BB はアウェイで北海道に勝利していますが、ホームゲームについてはここまで2月の京都戦以来勝利がないままシーズン終盤に差し掛かった状況で第3Qを終え52対63。今日も厳しいだろう、と思いつつも、心のどこかでひょっとして行けるのではという気持ちもありました。

終わってみれば第4Qで一気に28点を挙げ、80-77で逆転勝利。遅まきながら、ようやくかつての新潟が戻ってきた、そんな印象でした。

Bリーグ公式のテクニカルレポート

(<https://www.bleague.jp/news/25818.html>)によると、新潟は5点差以内での勝利数が三遠と並んで多い事が記されています。

接戦に強い新潟の原動力になったのはダバンテ・ガードナー選手とクリント・チャップマン選手の存在が大きかったです。見始めたばかりでバスケットはあまり詳しくはありませんが、それでもこの二人がチームを牽引しているなというのは見えてきましたし、何よりも印象に残りました。

この二人が同時にコートに立てる第4クォーターこそ新潟の真価を発揮できる時間帯でした。だから、仮に第3クォーターを終えて点差があっても、もしかしたら何かをやってくれるかもしれない、そんな期待を抱かせてくれました。

第4クォールに追い上げる展開の目立つ新潟は一部でon2最強の新潟と呼ばれましたが、ただ外国人選手が強いばかりでもなくチームを締めてくれたベテランの五十嵐選手と佐藤公威選手、苦しい時に流れを変える事が多かった畠山選手、攻撃に守備に貢献した遥選手と日本人選手の存在もまた16-17シーズンの新潟に欠かせませんでした。

新潟の肝である第4クォーターで相手の攻撃を凌ぎきったり、一方で勢いをつけて第4クォーターで追い上げて逆転、という展開は

それまで年に一度バスケットを見に行くかどうかだった全くルールを知らない私をバスケットの道へと引き込むには十分な物でした。

一時は三遠渋谷を抑えて中地区2位に立つ事もあり、ワイルドカードでも千葉に次ぐ2位になった事もありましたが最終的にはチャンピオンシップ出場を逃してしまいました。

理由は選手層の薄さ、これに付きます。負傷者が連続して出て思うようにメンバーが組めずその穴も埋められなかった試合が後半戦で続き、特に前日にガードナー選手が負傷で戦線離脱してしまった京都戦2戦目からの連敗が大きく順位をどんどん落とし、先の三遠戦の状況となってしまいました。

2月の京都戦から4月の三遠戦までの試合でもう少し勝てていれば、「いつもの新潟」が早く戻ってきていれば最後までチャンピオンシップ出場権争いに絡めたかもしれません。

また、所謂四強である栃木・川崎・A東京・三河に対して1勝も挙げられなかった点も悔やまれます。接戦を演じた試合もあったのですが勝ちきれず、レベルの差を痛感させられました。

選新潟は他のチーム、特に旧NBLのチームや大きな都市をホームに持っているクラブに比べれば財政面での厳しさは否めません。それがチャンピオンシップ出場を阻んだ選手層の薄さに直結してしまっています。

そんな中旧NBLでタイトル獲得経験もある渋谷と川崎、bj時代の強豪チーム三遠、後半から大きく調子を上げた富山、一時はチャンピオンシップ争いに手が届きそうだった横浜がいた中地区で残留プレーオフに回らずB1残留を決められたというのはとても大きいです。

来シーズンに関してはon2最強の新潟を支えたひとりでもあるチャップマン選手と地元出身のベテラン佐藤公威選手の退団が決まった一方で富山から城宝選手が加入と昨年のチームとは大きく色の違うチームになりそうです。

ですが、どんなに劣勢に立っていても、もしかしてと期待を持つ事が出来て、最後まで競り負ける事の無い新潟をまた今シーズンも見たいものです。

それをいつまでも続けることが出来れば勝てなかった四強に勝つ日も来るかもしれません。そしていつの日か、昨シーズンは夢で終わったCSの舞台に立てるでしょう。



アオーレ長岡（撮影：Mai.N）

終

だから海賊は面白い！ ～誰もが惹かれる個性派軍団・横浜～

執筆者：はおー

・崖っぷちから2度生還した「最もドラマティックなチーム」

「横浜ビー・コルセアーズ」。Bリーグ初年度からB1に所属し、過去にはbjリーグ制覇の経験もあるという、肩書きだけを見れば強豪の部類に入るチーム。しかし、その「航海」は決して順風満帆ではありませんでした。

15-16シーズンはbjリーグ東10位。B1に選ばれた18チームの中で唯一15-16シーズンのプレイオフに出場できなかったチーム。「何故B1へ行けたのか」との声もあがるほどの実力差が他の17チームとはありました。そんな中、16年のオフには4選手のみを残し、チームの2/3を入れ替えるという大改革を敢行。しかし、Bラジ調査の順位予想アンケートでは18チーム17位と、周囲から全く期待されていない中でBリーグ初年度を迎える事になりました。

結果から先に言いますと、アンケート通り17位でレギュラーシーズンを終えました。もし残留P0がなければ問答無用で降格する事になる順位です。しかも、ラスト25戦は2勝23敗と、どのチームよりも悪い状態の中臨むことになった残留P0。それでも、選手、ブースター、チーム。全ての「海賊」は諦めませんでした。

残留P01回戦。負ければ降格となる16位・秋田戦は2戦先取、1-1で迎えた第3戦。2点差を追いかける中、残り1秒で川村の放った3Pが見事に決まり、お釣りの逆転勝利。文字通り首の皮一枚繋がり、勝てば残留決定となる残留決定戦へ進みました。

その残留決定戦で富山に敗戦した横浜はB2で3位に入った広島との入替戦に臨むことになりました。勝てばB1、負ければB2。秋田戦に続き崖っぷちの試合でした。しかし、海賊達はこのタフなゲームを21点差で勝利。17-18シーズンもB1で戦えることとなりました。

「負けたら降格」という試合を2度勝つなど、横浜がBリーグ初年度で進んだ長く険しい航海。その航海の中には、ここでは語り尽くせないほど沢山のエピソードがあります。名門と名高い三河を破っ

た試合、アウェイ 8 連敗中にも関わらずホーム 6 連勝を決めた試合、後半 4 回目のタイムアウトを取ろうとして(本来、後半は 3 回まで)重いファウルを取られ負けた試合、細谷選手が B リーグ記録(当時)となる 1 試合 39 点を取った試合……。先輩海賊であるパイレーツ・オブ・カリビオンにも負けない程ドラマティックなシーズンでした。あ、横浜を映画化する際は是非主演ジョニー・デップでお願いします。

・入場者数 65%増！海賊はコート外も「スゴイ」

そんな横浜ですが、コート内の成長は勿論、コート外の成長が見られたシーズンでもありました。入場者数は 3009 人と B リーグ 6 位。昨シーズンから 65%増加するなど、着実に人気が増加しているのがわかります。一体、この人気の秘訣は何か。ここでは簡単に 3 つのポイントを挙げさせていただきます。

① あの超大物アイドルが登場！新規層開拓が「スゴイ」

シーズン前半、樗なアイドルさんや栄を代表するアイドルさんをハーフタイムショーにお呼びするなど、今までバスケットを見たことのない層へのアプローチが多くみられた今シーズン。こうしたイベントは既存の横浜ブースターにとっても新鮮な体験を与えてくれました。いやー、アイドルはやっぱり可愛いですね！

② 腹が減ってはなんとやら！グルメの豊富さが「スゴイ」

横浜の試合会場はグルメの種類が物凄く豊富。対戦相手にちなんだ週替わりのメニューや、大きな大きなシューマイなど、挙げ出したらキリがない程のバリエーションを誇ります。そして、チームスポンサーでもある横浜の地ビール「横浜ビール」も会場内で販売しています。地ビールを飲みながらバスケットボール観戦。大人な皆様にオススメしたい楽しみ方ですね。

③ フレンズ？戦友？ブースターとチームの近さが「スゴイ」

オフシーズンには選手と共に BBQ ができたり、チームフロントの人と商品開発についてガチで語り合ったり……。横浜はブースターとフロントを隔てる壁が限りなく低いチームの一つです。どのくらい

低いかというと、跳び箱4段くらい。ブースターもチームが肩を組んで横浜を盛り上げていく。正に無敵の布陣なのだ！

・いざ、再びB1の大海原へ。求む海賊仲間！

弱小チームからトップリーグのチームへ、そして日本屈指の人気チームへとジョブチェンジに成功した横浜ビー・コルセアーズ。ドラマティックで、面白くて、ちょっぴり「なんだよー」と思う時もある……。その全てが魅力的な個性派軍団。この乱筆を見て、少しでもこの海賊達に興味を持っていただけましたら、是非一度、「横浜ビー・コルセアーズ」と gooOle 先生に尋ねていただき、そして横浜の「ホームプール」横浜国際プールへお越しくください。沢山の海賊仲間が貴方を歓迎しますよ！

……え、バスケットボールなのにプール？

……これもまた、「個性派軍団」たる所以、です。



横浜国際プール（撮影：はおー）

終

バンビネーション！！

～バンビシャス奈良観戦記～

執筆者：勝汰

・当ページはB2 中地区で16-17シーズンを戦ったバンビシャス奈良に関するページです。B2 所属と中々なじみに無いチームかもしれませんが、ごゆるりと読んでいただけると嬉しいです。

① バンビシャス奈良って??

シーズンの感想を書く前に、少しバンビシャス奈良についての説明を。バンビシャス奈良はbjリーグの13-14シーズンより参戦を果たした「プロ」バスケットボールチームです。

名前の由来は小鹿を表す「バンビ」（ディズニー映画のあれが元です）とクラーク博士の名言「少年を大志を抱け」の『boys be ambitious』を掛けあせた造語で「Bambitious」というチーム名が出来上がっています。プロスポーツ不毛の地である奈良で様々な困難に立ち向かい打ち勝ちながら、映画のバンビのように王者になる。そんな願いが込められているチームです。

② バンビシャス奈良16-17シーズン感想

さて、そんなわけで、バンビシャス奈良の16-17シーズンの感想です。初年度でのB1昇格を合言葉にシーズンが開幕。開幕戦の信州戦でいきなり最大22点差をひっくり返す大逆転劇で勝利し、翌日も勝利、3試合目の東京EXの1日目も勝利し3連勝と幸先の良いスタートを切りました。

ただ、ここからがいばらの道、2日目の東京EX戦に負けると、続くFE名古屋戦に連敗。ここから泥沼にはまり5戦に1勝しかできない状態が続きました。年が変わる26戦で8勝、B2中地区最下位と非常に厳しい結果となりました。年が変わり2017年になると、途中退

団したジョン・フラワーズ選手(通称:お花さん)に代わり、日本での実績も豊かなテレンス・ウッドベリー選手が加わります。これが功を奏し、チームは一気に上昇気流へ。加入初戦で当時 B2 全体 1 位の熊本に大金星を挙げると(これがオフの悲劇につながるとは・・・)、チームレコードタイの 6 連勝を始め、倍近いペースで勝利を重ね、年あけてからの 34 試合で 16 勝、最終成績が 24 勝 36 敗とチーム歴代最高勝率の 4 割、B2 中地区 4 位を記録するシーズンになりました。

1 言で表すならば、まるでジェットコースターみたいなシーズンでした。3 連勝で開幕したかと思えば、勝てない日々が続き最下位に転落。6 連勝したかと思えば 5 連敗する。21 点差を逆転する試合もあれば、20 点リードがあっても負ける試合もある・・・。なんとも心が落ち着かない 1 年でした(^_^;)

その要因となったのは 10 点差以内での敗戦が 23 試合と全体の 64%にものぼった事が挙げられます。実力差以上に戦術面や勝負所の弱さが目立ちました。来シーズンはこの接戦を勝ち切れる必要があります。

また B1 ライセンスに必要な 5000 人規模のアリーナの建設、平均 1500 人の観客動員と課題は山積みです。ですが、名前の由来になっている、あのバンビのように多くの困難を乗り越えた先に道があると信じています。

③ バンビシャス奈良 16-17 シーズン ベストゲーム

その 1 2016 年 10 月 16 日 東京 Z 戦 ならでんアリーナ

開幕の 3 連勝後、4 連敗を喫して迎えた試合。試合は終始東京 Z ペースで進み、4Q 残り 5 分 19 秒時点で 56-69 で 13 点ビハインド。奇跡が起きたのはここからの 5 分間だった。平尾選手の 3P を皮切りに、連続で 3P が決まる。気迫のディフェンスで東京 Z に得点を許さない。

そして同点に追いつき、会場が最高潮に高まった残り 15 秒。リバウンドから本多選手のレイアップが決まり 71-69 で逆転勝利。会場とチームが最後まで諦めずに戦い続け、勝利に向かって一体になったからこそ、得る事が出来た奇跡だった。

その2 2017年4月30日 東京EX戦 小豆沢体育館

前日の勝利により、勝てば中地区4位が決まる戦い。前半が終了した時点で23-37と19点リード。しかしながら、後半選手の脚が止まり東京EXの猛攻にさらされる。4Qの残り5分、東京EXルーキ選手の3Pが決まり、ついに逆転を許す。ここから、ブースターを含めたチームのぶつかり合いになった。音響が消され、木霊する両チームのコール。どちらのブースターも想いをぶつけ、必死に声を枯らして応援する。それが最後に微笑んだのは東京EXだった。69-69で迎えた残り5秒。東京EXヘラルド選手のフリースロー。1本目を外し、2本目がリングに弾かれ、誰もが延長を覚悟した瞬間。リバウンドを獲ったアンディ選手とウッド選手が激突。ボールは手を離れ、リングに吸い込まれていった(自殺点)。結果71-69で敗戦。負けはしたが、ブースターの力、バスケの醍醐味を感じた試合で、不思議と悔しさ以上に感動と満足感が残った試合になった。

④ 16-17 シーズン 魅力的な相手選手たち

その1 FE名古屋 福澤晃平選手 PG/SG

関西大学出身で、今シーズンからFE名古屋に加入したルーキー。ルーキーとは思えない度胸と3Pの精度の高さを持っており、奈良との試合では決まって活躍した。FE名古屋残留が決まっており、来シーズンも手ごわい相手となりそうだ。

その2 福島ファイヤーボンズ 菅野翔太 SF

今シーズンB1、B2通して最も3Pシュートを決めた選手(153本)。そのシュート力は奈良との試合でもいかに発揮され、正月ゲーム(1月2日)で新春をお祝いするかのようにはBリーグレコードの8本を含む26得点をあげ、無事に奈良のトラウマと化した。来シーズンも福島に残留するだけ、今から対戦に震えている。

その3 山形ワイヴァンズ 村上駿斗選手 SG

この選手を語るのは最後の1秒だけで十分だった。1月28日の山

形戦。テレビ中継も入った試合、最後の最後まで試合は接戦でシーズンゲームだった。4Q 残り 1 秒 69-69 の同点で村上選手がボールを放つ。そのボールはブザーの音を背に受けながら綺麗な放物線を描きリングに吸い込まれていった。ブザービーター。

そんな彼は来季から同地区の広島に移籍。ブザーがなる瞬間に彼がボールを放ったら声にならない叫びを上げてしまうかもしれない。

その4 各チームのブースターさん

敵であり、一緒に会場を盛り上げる味方。どのブースターさんもチームへの愛にあふれた声援を送り、気を抜くと飲み込まれる。来シーズンもバチバチの応援合戦を戦いたいライバル達である。



バンビシャス奈良マスコットのシカッチェ（撮影：勝汰）

終

千葉ジェッツを総括…？してみた

執筆者：青砥千樹

総括というか、千葉ジェッツの今シーズンにあったことをかなりざっくりと振り返ってみます。

【2016-2017 シーズンのテイクオフ】

今シーズンからは1階席のコートサイドはほぼ全席指定席となり、自由席はコートエンドのみ。まさか10月に東京に引っ越すとは思ってもしなかったのが当然シーズンチケットなんて買ってないw まあ何とかベンチ裏の指定席(1階席最上段とか)がなんとか確保できたけど。

関西の時でも、千葉ジェッツのアウェイ戦でお見かけしたジェッツな皆様や赤アフロな皆様の様子は変わらずでw あっさりすんなりとスタンディングの輪に加わってしまいましたw

この節の時点では、レバンガ北海道はけが人が多く7人で試合を回す事態になっていました。まあそんなこんなでしたので、試合としは快勝でしたが、大丈夫かいなレバンガ…とは思いました。

千葉は、今シーズンから初の帰化選手パーカー選手、外国籍選手には、アームストロング選手、ストーン選手、日本人はセンターの伊藤選手が加入しました。今まで小野選手がセンターの役割多かったんですが、それを変えることで、小野選手がポストアップからミスマッチを攻める新しい攻撃パターンができるようになりました。あと、やはり富樫選手を主力に据えられるようになったのは大きいです。

試合とは別件ですが、今シーズンに入ってからクラブ公式や島田球団代表のツイートがだいぶ饒舌になったなあと思いましたw

【あの事件】

10月30日(日曜日)のホームA東京戦。自分は指定席が取れずゴール裏の自由席で観戦しておりました。

試合開始からゲームクロックが6分ほど進んだあたりで事件は発生。接触プレイのもめ事を止めようとして双方の選手がコートに入

ってしまい、あわせて11人が失格退場となり、千葉6人、A東京7人での試合に。3300人の観衆の前で見せてはいけない試合になりそうでした。

そんな中でもなんとかファウルアウトによる追加退場者が出るのを避けられました。負けたものの12点差で終われたのはまだよかった方なのかな？と思うことにしました。

接触プレイにかかわった、千葉のアームストロング選手が、2試合の出場停止。次の試合は仙台でのアウェイ戦。どうなってしまうんでしょうか。

【安定飛行から最高高度へ】

しかしピンチはチャンスになりました。今までちょっとイケイケ気味？だったチームに結束力が生まれます。ゴール下を体を張って守ってきたアームストロング選手がいない事態を残りのプレイヤーでカバーしていきました。

ここから千葉は、仙台、秋田、栃木、北海道、SR渋谷、富山と…クリスマスゲーム直前までに1段目のエンジンが火を噴き13連勝を積み上げます。今となってはですが、SR渋谷とはサクレ選手が加入する前に当たってよかったかなとも思いましたがwもちろん13連勝は千葉としてのクラブ新記録です。

その後、アウェイ新潟で1勝1敗、晦日、大晦日のホーム川崎を2連敗とちょっと足踏みで2016年が終わりました。ただ、この川崎2連敗も20点差以上ついていたところから追いつきかけたけど振り切られた…というゲームでした。川崎相手に2点差、6点差ならかなり今迄から言えばかなり上出来だったかと思います。

この辺りから、試合会場の船橋アリーナにも変化が現れます。昨年までは多くて4000人だった会場に、ほぼ毎試合4500人近い観客が訪れるようになりました。

すると、駐車場が足りない、ごみが座席に放置されてる、ごみ箱が足りない…と色々な問題が露呈してきました。それでも、クラブ公式や球団代表からのツイートや、翌日や翌節からは何とか対処したりとブースターが試合終了後の会場でゴミ拾いをしたりと、クラ

ブやブースターの間にも変化に対応していく空気が出てきました。

【初タイトル】

そして年が明け、天皇杯。千葉は3回戦からの登場。一発勝負のトーナメント戦で本領を発揮します。ここまでのリーグ戦では、1勝2敗の栃木、まだ未対戦の三河と撃破し、初の決勝進出。勝てばもちろん初優勝、かつプロチーム初の優勝となります。

天皇杯のチケットは、どこが勝ち上がっても見に行くつもりで、発売開始日に準決勝と決勝のアリーナ自由席のチケットを抑えていましたが、これが大当たり。代々木第一の大舞台に千葉が登りました。

相手は、つい1週間前に対戦したばかりの川崎。千葉2Qでファジーカー選手を抑え込み2桁の点差をつけ、後はじりじりと引き離す。川崎に4Qで追いつかれないとかどんだけがんばったんだよ。終わってみれば22点の大差をつけて、初優勝。千葉ジェッツとして初のタイトルを手に入れました。そして、ここから観客数もまた増えていくのでした。

【これぞお祭り】

天皇杯の翌週は、オールスターゲーム。B1の18クラブから、人気投票、リーグ推薦で選ばれた24人をドラフトにかけてチーム分け。他にも3ptコンテスト、ダンクコンテストと賑やかなイベントが盛りだくさん。

試合の方は、各クラブのオフENS曲がかわるがわる流れる中でのゲーム。普段見られない同クラブ選手同士のマッチアップ（富樫vsアームストロング）や、ちょっとしたおふざけ演出、名古屋Dのバーレル選手が富樫選手の体ごとアシストする豪快なダンクなどなど、普段のゲームでは見ることのできない体験ができました。これぞお祭り。

【見えるけど届かぬ後ろ姿】

オールスター明けの初戦、アウェイ栃木を落として、その後ホームでの三河、アウェイでの横浜をそれぞれ1勝1敗として、すんなりと後半戦のテイクオフができなかった千葉。正直三河相手に連敗

しなかったということに驚いているのですがw

しかし、ここからまた千葉は2段目のエンジンを点火し連勝気流に乗ります。アウェイ横浜、アウェイ名古屋、ホーム秋田、アウェイ琉球、ホーム滋賀、アウェイ京都に1勝1敗として9連勝。その先、ホーム北海道に2連勝のあと、アウェイ秋田、ホーム栃木とそれぞれ1勝1敗。

このあたりで、千葉の立ち位置は東地区3位。東地区1位の栃木には及ばないものの、2位のA東京の3ゲーム差でしっぽが見えてきました。しかし、上位2チームは勝率8割近いチーム。交流戦が終わってしまった以上、直接対決で勝たない限り差は縮まりません。

そうなると、直近で栃木に2連敗はしていないものの1勝1敗でも千葉へのダメージは大きかったのかも知れません。

4月15日(土曜日)のアウェイA東京戦。A東京との最後の2連戦になります。この時点ではA東京との戦績は1勝3敗。2連勝して何とか戦績をタイに。できるならば得失点差で上回って同率になった時のマウントポジションを取りたいです。

試合展開は、3Qまで1桁リードされていたのを、逆転したもののさらに再逆転され、4Q途中には11点差まで広げられたものを、残り7秒でアームストロング選手が値千金の同点ゴールを押し込んで延長戦へ。

延長戦での3pt打ち合いを制して6点差で勝利。翌日も4Q最後に田中選手に全部決められたら同点になるフリースロー3本を献上するものの、全部外して、6点差で千葉の勝利。A東京とのゲーム差は1まで縮まり。3勝3敗でタイになったものの、得失点差で4点だけA東京が上回ってしまい、優位なポジションを取ることができませんでした。

この2連勝をきっかけに千葉の3段目のエンジンが火を噴きました。ホーム仙台、アウェイ栃木、ホーム秋田、最終戦のアウェイ北海道と、最後まで止まることなくまた9連勝を積みあげました。特にアウェイ栃木戦はブレックスアリーナ宇都宮の最終戦で、栃木が1勝でもすれば東地区優勝がかかる大一番。ブレックスアリーナ宇都宮は当然満員だったのですが、その大プレッシャーをはねのけ、千

葉が2連勝。東地区優勝決定を3日後のA東京に押し付けましたw

これで今シーズンの栃木との対戦成績も4勝4敗のタイ。ただし、こちらでも得失点差が30近くあったために勝ち越しとまではいきませんでした。あの「カレーの中の福神漬け」状態の中でよく応援したし、よく勝ち切ったもんですよw応援する側もああいう環境で勝つものを見るとまた応援しようって気になるものですw

レギュラーシーズン後のチャンピオンシップのクォーターファイナルもまたアウェイでの栃木戦になる可能性が濃厚です。ただ、この試合の時はまだギブス選手が怪我から復帰してなかったんですよ。復帰されると怖いのは間違いありません。

レギュラーシーズンは過去最高勝率44勝16敗、勝率.733。A東京と勝率は並んだものの、前述の得失点差が響いて東地区3位。ワイルドカード上位でのチャンピオンシップ進出となりました。

【最後に見えた綻び】

チャンピオンシップのクォーターファイナル。相手は栃木。会場は当然ブレックスアリーナ宇都宮。観戦に行けなかったのがネット中継で観戦しておりました。game1は2Qでつけられた9点差が重くのしかかり敗戦。後がなくなったgame2では千葉が1Qで20点の点差をつけましたが、その後は栃木が主導権を握り、2Qで5点、3Qで12点と差を縮められ、4Qで逆転され7点差で敗戦。

そんなgame2のラストで、アームストロングとストーンがプレイの内容について内輪もめをする場面が見られました。ストーン選手が残りのショットクロックを確認しないでプレイして24秒バイオレーションを取られたことに、アームストロング選手が激昂した…ということらしいのですが、その二人が荒れると誰も止めようがないという。明らかにパスのタイミングが狂ったりと最後の最後に精神的な弱さが出てしまったのかなと思いました。

【最高の舞台には立てなかったけど】

天皇杯同様に「どこが勝ち上がっても見に行く」とチケットを先行発売で買ったB.LEAGUE CHAMPIONSHIP FINAL。ファイナルに進んだのは、川崎と栃木。

会場の代々木第一体育館は、栃木ファン7割、川崎ファン3割といった感じに見える。川崎側のベンチ裏やゴール裏にも栃木ファンが座っている感じ。カレーの中に結構多めに福神漬けを入れたような感じでした。

試合はご承知の通り、最後の最後まで息詰まるシーソーゲーム。これこそファイナルにふさわしい試合だったと思います。TV解説の佐々木クリスさん曰く、「(攻撃の)質の川崎、(攻撃の)量の栃木をキーワードとして挙げていましたが、最終的には質も量も上回った栃木が制しました。」と。

1万人を超える観衆の前で、黄色い紙吹雪が散る。千葉も来年はこの舞台に立って赤と銀の紙吹雪を吹かせたいと思いました。

【行く人来る人】

ファイナルの翌日、千葉はららぽーと TOKYOBAY でブースター感謝祭を開催。球団代表の島田社長の挨拶で、「来年は、アーリーカップ、天皇杯、チャンピオンシップの三冠を狙いたい。まずはアーリーカップから。しかし、B1 東地区は今年以上に激戦区です。死の地区以上って…何って言えばいいですかね、地獄ですかね?(笑)」とこんな感じのことをおっしゃってましたが、東地区は、北海道、栃木、千葉、SR渋谷、A東京、川崎。うん、地獄だwしかも川崎はほぼ主力メンバーを変えていないw

千葉のチーム編成は、自由交渉リストへの掲載の案内が遅かったことを考えると、NBL2年目と同様に日本籍選手には全員残留オファー出したんじゃないかなと推測しています。

千葉を出た選手は3名。

上江田勇祐樹選手→富山へ。

ヒルトン・アームストロング選手→琉球へ。

タイラー・ストーン選手→契約満了で退団

出る選手いれば入る選手あり。

三河から→ギャビン・エドワーズ選手

SR渋谷から→アキ・チェンバース選手

アキ・チェンバース選手は、母親が日本人のため日本国籍を持っていて、日本人選手として扱われます。

残りの阿部、富樫、パーカー、西村、荒尾、石井、原、小野、伊藤の各選手は、軒並み残留となったので、チームケミストリーの構築は早くできるものと考えます。

残る外国人センターが誰になるのかに注目です。2017-18 シーズンは川崎が入って、過酷な地区になりますが、その方が応援のし甲斐もあるってものだと思います。

2017-18 シーズンはベンチ裏のシーズンチケットを買いましたので、テレビにチラ写りする場所で応援したいと思いますw

【千葉ジェッツ チームスタッツ】

1 試合平均得点 82.3点(3位)、
3 ポイント成功率 35.6%(4位)
2 ポイント成功率 53.2%(2位)
フィールドゴール成功率 46.1%(3位)
フリースロー成功率 71.7%(10位)
オフェンスリバウンド 715本(7位) 1試合平均 11.9本
ディフェンスリバウンド 1571本(15位) 1試合平均 26.2本
アシスト 923本(4位) 1試合平均 15.4本
ターンオーバー 703本(8位) 1試合平均 11.7本
スティール 445本(2位) 1試合平均 7.4本
ブロックショット 254本(同率1位) 4.2本

スティールとブロックショットが多いのは、主にパーカーとアームストロングも活躍だったようです。

アシストの多さは、当然富樫なんですが、それに次ぐのがポストアップからの選択肢として、キックアウトパスを出す小野だったようです。

新しい選手を加え、千葉ジェッツがどんな活躍をするのか、それを楽しみにしながら、2017-18 シーズンの搭乗チケットを握りしめて搭乗開始を待ちたいと思います。

終